

研 究 結 果 報 告 書

漢語動名詞についての日中対照研究

日本語教育においては、特に中上級の読解教育ともなると、「漢語＋する」といったような漢語動詞は初級の教材に比べ、大幅に出てくる傾向がある。この類の動詞では、例えば、「想像する」「連絡する」「凝視する」などのようなものは、中国語の字形や意味と殆ど同じであるのに対し、「崩御する」「把握する」「感心する」「退屈する」「質問する」などのような漢語動詞は、中国語には完全に用いられないものもあれば、中国語には用いられるものの、中国の意味とは全く異なるものもあるわけである。もちろん、前者のような漢語動詞なら、意味的にも字形的にも中国語と同様であるため、学習者にとってはそれほど難しいものではないが、後者のものになると、困難を感じるようである。したがって、もしこのような日中対応のパターンが類型化できれば、中国人学習者に対し、漢語動詞を学習する際に一助を提供できるのではないかと思われる。

したがって、本稿では『1Q84 book2』（村上春樹 2009）を研究対象とし、「漢語＋する」のいわゆる漢語動詞をすべて抽出し、中国語の対訳本（頼明珠 2009 訳、時報出版）と対照・比較したうえで、7 累計に分類したことに成功した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 （題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

論文 （題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

陳志文「漢語動名詞についての日中対照研究」『応用外語学報』第17号、国立高雄第一科技大学 外語学院（投稿中）

書籍 （題名・著者名・出版社・発行時期等）